

プール熱 (咽頭結膜熱)

夏かぜの一つに、プール熱と呼ばれる病気があります。高熱、のどの痛み、目やにといった強い症状があり、伝染力が強いのも特徴です。

一度はやりだすと、園や学校でのプール使用にも気をつけなければいけません。



プール熱の予防法

名前のとおり、プールの水を介して伝染することがありますので、園・学校での水泳では、十分気をつける必要があります。一般的に、水泳前後の手洗い、うがい、シャワーの使用、洗眼などを、きちんとしてください。目やにがでていたり、かぜぎみのときは、無理をせず休んで下さい。

唾液によっても感染しますので、病気になっている子はしっかりと休み、その周りの人は、うがい、手洗いなどをきちんとして下さい。家では、顔をふくタオルは各自用にしておいて下さい。

夏場にはやる感染症ですが、とくに園・学校や、地域で流行が始まつたら、早めに対処をして下さい。ときには、プールを閉鎖することも必要です。



プール熱（咽頭結膜熱）

● プール熱とは

夏にプールを通して子どもたちの中で流行ることが多いので「プール熱」と呼ばれています。実際には、プールに入らなくてもうつります。

アデノ・ウィルスという仲間がこれを引き起こしますが、何種類かの型があります。

39～40度の高熱が4～5日続き、のどの痛みが強く（咽頭炎の症状）、目が赤く、目やにがでます（結膜炎の症状）。

さらに、頭痛、吐き気、腹痛、下痢などを伴うこともあります。



● 治 療

「特効薬」はなく、症状をあさえる治療が中心です。

熱やのどの痛みをあさえる薬（解熱鎮痛剤）、目やにがひどいときは目薬を使います。

● 家庭で気をつけること

- (1) 高熱：何日も高熱が続いますが、熱さましを使いすぎないようにして下さい。
暑がっているようなら、涼しくしてあげて下さい。
- (2) 食事：のどの痛みが強いため、よけい食欲がなくなります。栄養はなくても、少しずつとれていれば大丈夫です。（すっぱい物や、醤油・ソースはいやがります。）
- (3) 水分：水分は十分にとらせて下さい。麦茶、イオン飲料など、あっさりしたものでけっこうです。
- (4) 入浴：熱があっても、とくに具合が悪そうでなければ、汗を流すことはかまいません。

● もう一度診察を

- (1) のどの痛みが強く、水分もまったくとれないとき。
- (2) 高熱が4、5日以上つづくとき。
- (3) 元気がなく、ぐったりしているとき。

● 園や学校

熱が下がり、のどの痛みもとれて、食事も含めて普通の生活に戻ってからです。（学校伝染病に指定されていて、「主な症状がなくなつてから2日間」過ぎたら、出席できることになっています。）